



しいと願う以外に具体的  
に何もできないことに無  
力感を抱かざるをえませ  
ん。

### 機能不全に陥った 国連安保理

それにしても、この重  
大な時期に一体全体、国  
際連合（国連）は何をし  
ているのか、なぜウクラ

り考えてみたいと思いま  
す。  
そもそも現在の国連  
という組織は、ナチス・  
ドイツと日本の降伏に  
より第二次世界大戦が  
終了するわずか2カ月  
前の1945年6月、サ  
ンフランシスコ会議に  
出席した連合国50カ国  
が採択した国連憲章に  
よって創設されたもの

## 国連は無用の 長物か？

### ウクライナ戦争の教訓

ロシアの侵攻によりウ  
クライナ戦争が勃発して  
から2年1カ月、またパ  
レスチナ自治区のガザ地  
区でイスラエル・ハマス  
戦争が突発してから6カ  
月。いずれの戦争も簡単  
には決着せず長期化の様  
相を呈しています。その  
間にも、多くの一般市  
民が犠牲になつていま  
す。この悲惨な状況を私  
たちは日々テレビなどで  
つぶさに見ながら、戦争  
が一日も早く終わってほ

イナ救援や停戦仲介に乗  
り出さないのか、機能不  
全に陥っているような国  
際組織なら不要ではない  
か、どうすれば国連改革  
ができるのか、という素  
朴な疑問が噴出するのは  
当然でしょう。そこで今  
回は、改めて国連とは何  
か、とくに安全保障理事  
会の改革はできるのかど  
うかなどについてじっく

（憲章の発効は同年10月）  
で、正式名称は「連合諸  
国機関」（United  
Nations Or  
ganization）  
n）。それを日本では、  
「国際連合」と呼んでい  
るわけですが、元々日独  
伊など「枢軸国」と戦つ  
た連合国（United  
Nations）中心  
の国際機関であることは



ロシアによるウクライナ南部マリウポリへのミサイル  
攻撃（ゼレンスキー大統領のインスタグラムから）

明らか。その証拠に日独  
伊などは憲章上は今でも  
「旧敵国」と明記されて  
います（第53条など）。た  
だし、現在ではこの条項  
は死文化されているとき  
れます）。

周知のように、国連に  
は六つの主要機関があり  
ますが、最も重要なのは、  
国際平和と安全の維持に  
主要な責任を負うとされ  
る「安全保障理事会」で、  
米、英、ソ連（現在はロ  
シア）、仏、中国（当時  
は中華民国）の5大常  
任理事国）とその他の10  
カ国（2年任期の非常任  
理事国）によって構成さ  
れています。

ば、たとえ他のすべての  
理事国が賛成しても、決  
議はできない仕組みにな  
っています。実際に、ウ  
クライナ戦争でロシア  
を、ガザ紛争でイスラエ  
ルやハマスを非難した  
り、制裁を課そうとした  
りした時も、ロシアや米  
国などが拒否権を行使し  
たので、非難決議は採択  
できませんでした。これ  
こそが現在の国連が機能  
不全に陥っている最大の  
原因です。では、なぜこ  
のような厄介な拒否権制  
度ができてしまったので  
しょうか。

（2面に続く）

拒否権制度の歴史的背景

「拒否権」を認めることに合意しました。特にスターリンがそれを強く望んだといわれますが、ルースベルトとチャーチル

それを理解するために、1世紀以上の第一次世界大戦までさかのぼって考える必要があります。第二次世界大戦後のベルサイユ平和条約会議

(1919年)で、米国のウィルソン大統領の提唱により「国際連盟」(League of Nations)が創設され

英、仏、日本、イタリアなど当時の一流国が常任理事国になりました(その後ドイツも脱退した

ために、国際連盟は弱体化し、重大な国際紛争を解決する権威と能力を失

い、ついに第二次世界大戦の勃発を阻止することはできませんでした。

こうした苦い経験にちなみ、米国のルースベルト大統領、英国のチャーチル首相、ソ連のスター

リン書記長の三巨頭は、戦時中に何度も会談し、戦後創設されるべき国際組織の仕組みについて話し合った結果、新しい国際連合の安全保障理事会の5大常任理事国には

西冷戦状態が表面化。アジアでは北朝鮮が、ソ連と中国の支援を得て韓国に

戦争(1950~53年)が勃発したから

特に朝鮮戦争の場合、国連安保理が憲章に従って「国連軍」を組織し派遣しようとした

したが、ソ連が反対したため、動きが取れませんでした。そこで、安保理に代わって、国連総会(全加盟国が1票を持つ)が緊急会議を開き「平和のための結集」という題名の決議を採択。それに基づいて、西側の有志諸国が自発的に軍隊を派遣することにしました。

これは国連憲章に基づく正式の「国連軍」ではありませんでしたが、その最高司令官には、当時日本を占領していた連合国最高司令官のマッカーサーが就任し、仁川上陸作戦などで活躍したことはご存じの通り。

こうした経緯からみて、国際連合の安全保障理事会に拒否権制度を取り入れられたのはやむを得なかったし、その時点では合理性もあつたと認めざるを得ませんが、そうした当初の期待は、戦後まもなく裏切られます。ソ連がヨーロッパで東欧諸国を一鉄のカリテの内に抱きかかえ、それに對抗して米欧が北大西洋条約機構(NATO)を結成したために東

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」

似て非なる「国連軍」



朝鮮戦争で破壊されたソウル(ウィキペディアから)

するわけがありません。例えば日本国憲法も改正が極めて難しい仕組みになっていますが、それ以上に国連憲章の改正手続きは難しくなっており、事実上不可能といえます。

全く新しい国際組織を創る?

この際、大変な荒療治になりますが、現行の国連(特に安保理を潰して)をもって新しい国際組織を創るということも考えてみるべきではないか。具体的な方法としては、安保

理改革に反対する常任理事国だけを残り、他の一般の加盟国は一斉に国連を脱退し、全く新しい国際組織を創設する(現行の憲章にはそのような集団的脱退を禁止する規定はありません)。新しい国際組織では、すべて加盟国が対等で、原則的に1国1票。あるいは、人口やGDPにある程度比例した票数を割り当て

る。そうすれば、日本の国会や他の民主主義国の議会のように多数決で議決ができるようになるはずですが、本来の意味では国際軍隊も持つことができないはず。さてそうなった場合に、実際に国際紛争が発生したとき迅速に対応できるように、その紛争の当事国が現在の5大国の一つであるか、どういふこととなるか。相手は核兵器を持つているので、最も悪の場合それを使う恐れがあります。それに対応するためには新国際組織も核兵器を持たざるを得なくなるでしょう。当然現行の「核兵器拡散条約」(NPT)は完全に有名無実化するので、核兵器を持つ国が続々と出てくる可能性があります。そうなると世界平和どころの話ではなくなり、それで良いと考えるわけにもいきません。

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

数決で議決ができるようになるはずですが、本来の意味では国際軍隊も持つことができないはず。さてそうなった場合に、実際に国際紛争が発生したとき迅速に対応できるように、その紛争の当事国が現在の5大国の一つであるか、どういふこととなるか。相手は核兵器を持つているので、最も悪の場合それを使う恐れがあります。それに対応するためには新国際組織も核兵器を持たざるを得なくなるでしょう。当然現行の「核兵器拡散条約」(NPT)は完全に有名無実化するので、核兵器を持つ国が続々と出てくる可能性があります。そうなると世界平和どころの話ではなくなり、それで良いと考えるわけにもいきません。

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

国連は人類を天国に導くものではない

現行の国連制度の方がまだましということになるのではないのでしょうか。そもそも現実の国際社会は、弱肉強食とまではいわずとも、それに近い状況であり、ある程度の不合理は容認せざるをえません。ならば、多大な困難を伴うだろう抜本的な荒療治よりも、現在の国連制度の下で地道に辛抱強く改善の努力をしていく以外にないと思います。

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

2代の国連事務総長を務め、在任中に飛行機事故(爆破された)の説もある)で殉職したダグ・ハマーショルド(1953~61年在任)の言葉です。「国連は人類を天国に連れて行くために作られたものではない。地獄に落ちるのを防ぐために作られたものだ」

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

ウクライナ 戦争の教訓

最後にもう一点。今回ウクライナ戦争から分かるように、国連の安保理は頼りならず、NATOという地域安全保障条約にも加盟していないウクライナは、外国からの軍事物資の支援は受けられても、地上戦は自国軍隊だけでやらねばならず、苦戦を強いられています。結局国を守るのは自力と、条約ではつりあ

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

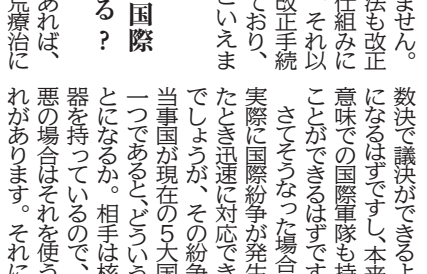
国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?

国連は無用の長物か?



国連安保理(パール・クローグ撮影)

元外交官。ハーバード大学法科大学院卒。元国連環境計画(UNEP)アジア太平洋地域代表、元外務参事官。退官後東海大学教授(国際政治学)、現在はエネルギー戦略研究会会長のほか、外交評論家として活躍中。新城市出身、87歳。